

**学生の就職・採用活動開始時期等
に関する調査結果（速報版）について
（概要）**

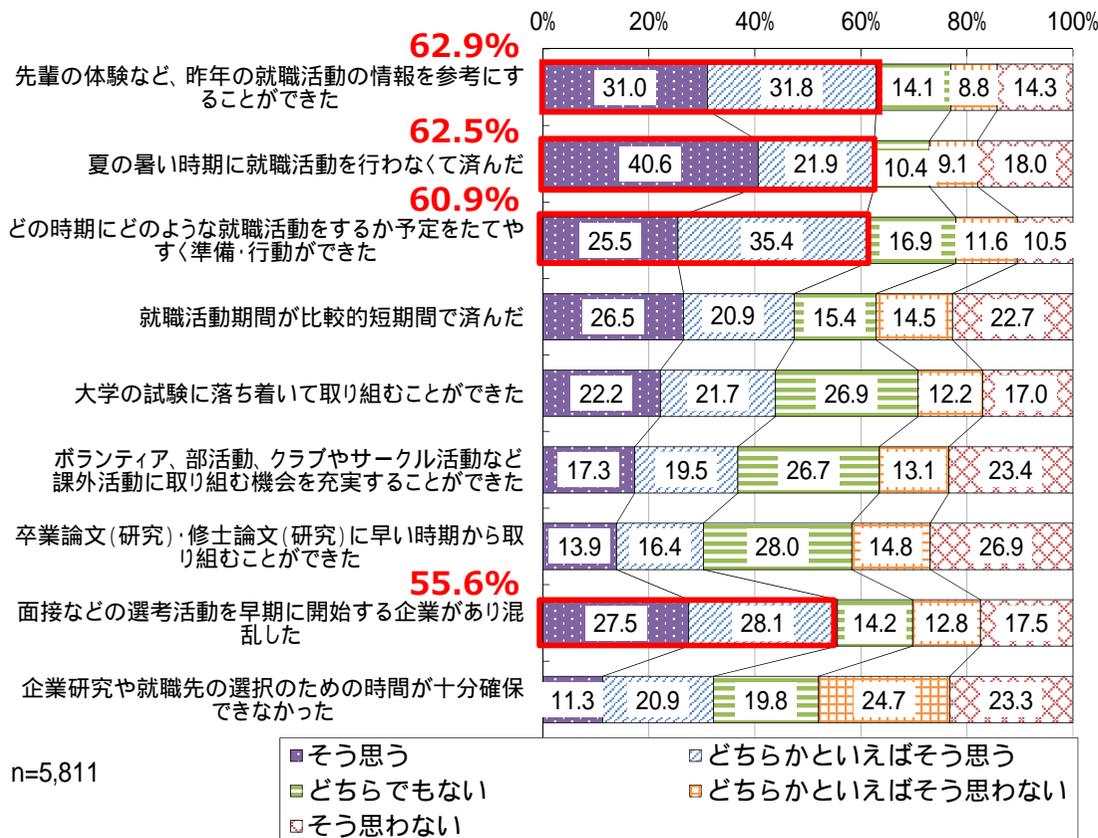
令和元年10月8日

内閣府

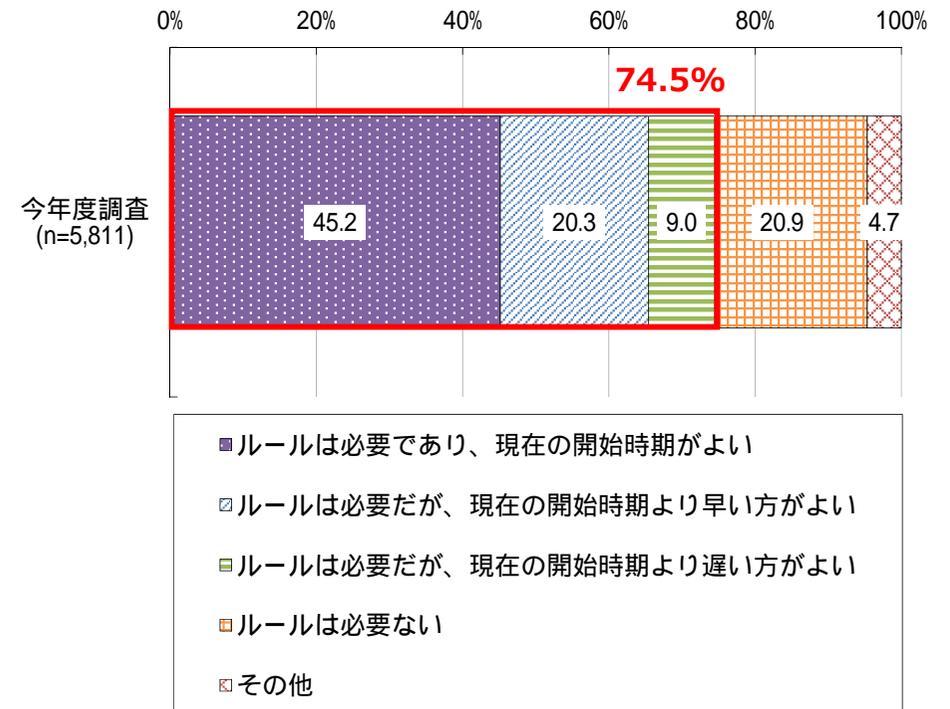
就職・採用活動時期に関する認識

- 内閣府では、就職・採用活動の円滑な実施及び若者の安定的な雇用に資することを目的として、**就職・採用活動に関する学生の意識・行動等の実態について調査**を実施。
(2019年度調査の有効回答数は6,986名(大学4年生:5,023名、大学院2年生:1,963名))
- 2019年度の就職活動時期が、昨年度と同じ時期(広報活動3月、採用選考活動6月)に設定されたことについては、約6割の学生が「**昨年の就職活動の情報を参考にすることができた**」、「**夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ**」、「**予定をたてやすく準備・行動ができた**」といった点にメリットを感じている一方で、「**選考活動を早期に開始する企業があり混乱した**」との回答も同程度存在。
- 就活ルール(広報活動3月、採用選考活動6月)について、「**ルールは必要**」との回答が約7割、特に、「**ルールは必要であり、現在の開始時期がよい**」との回答が約5割と最も高い。

就職・採用活動時期に関する認識



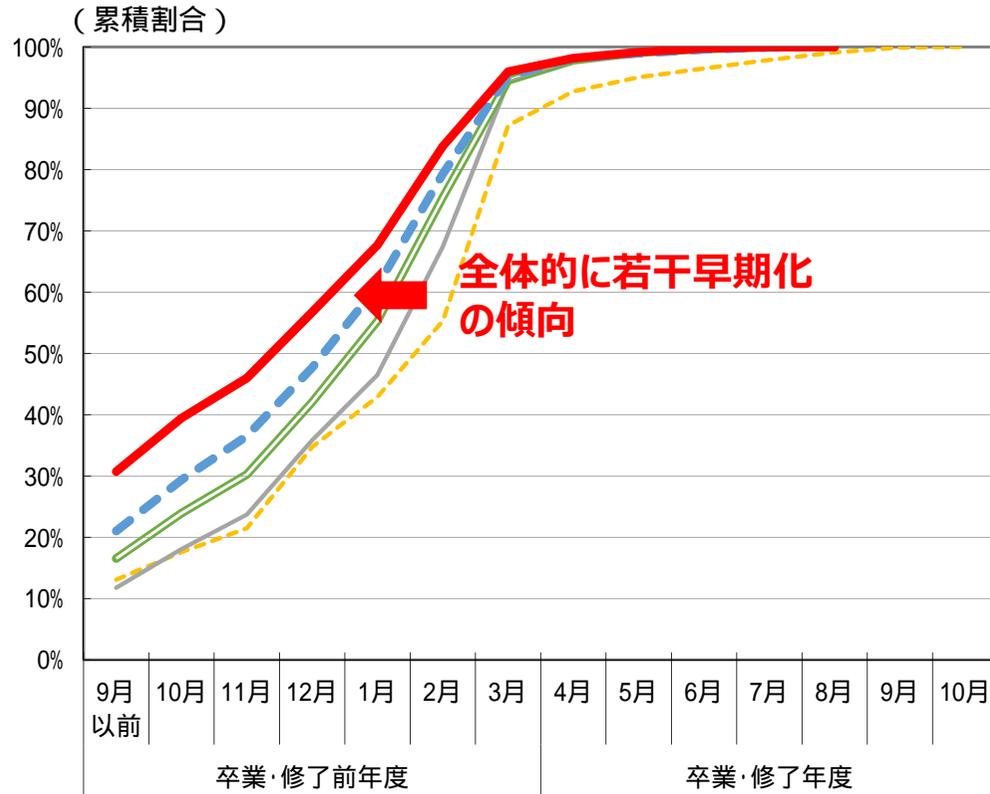
就職・採用活動時期(就活ルール)に関する認識



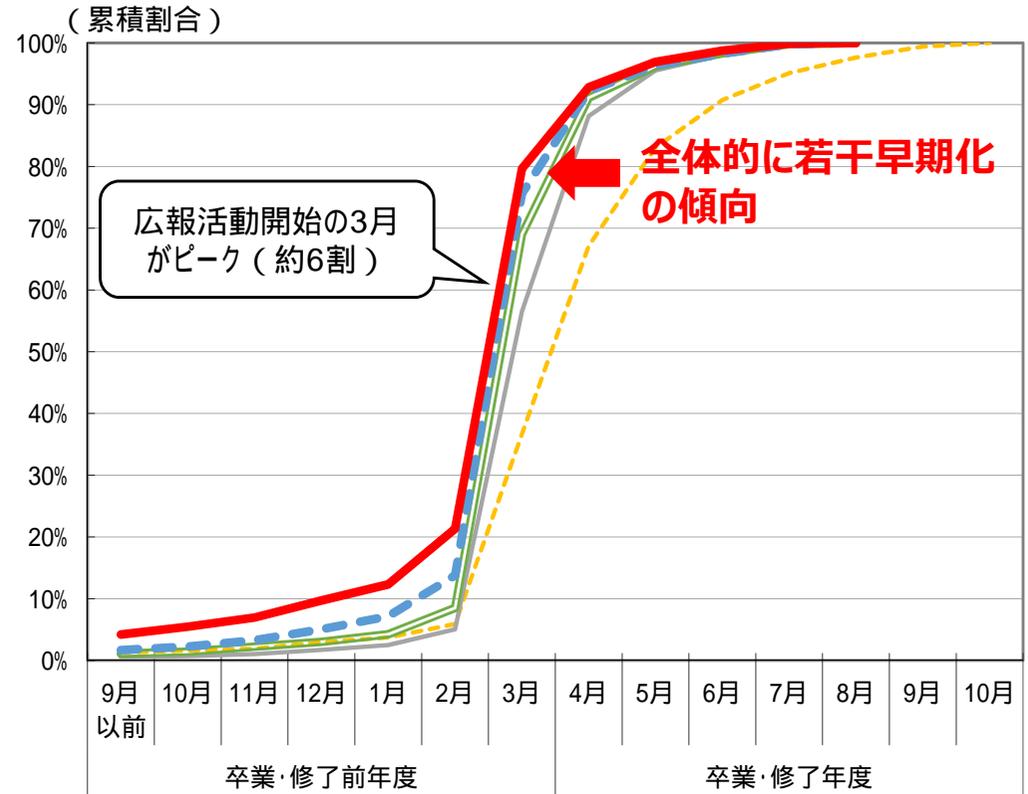
業界や企業の分析、説明会やセミナーへの参加時期

- 業界や企業に関する分析を開始した時期、企業説明会やセミナー等への参加時期は、就職・採用活動時期を後ろ倒しした2015年度以降、大きくは変わっていないものの、全体的に若干早まっている傾向。
- 先輩の就職活動の情報を参考にしつつ、早めに準備を行う傾向が見て取れる。

業界や企業に関する分析を開始した時期



企業説明会やセミナー等への参加時期



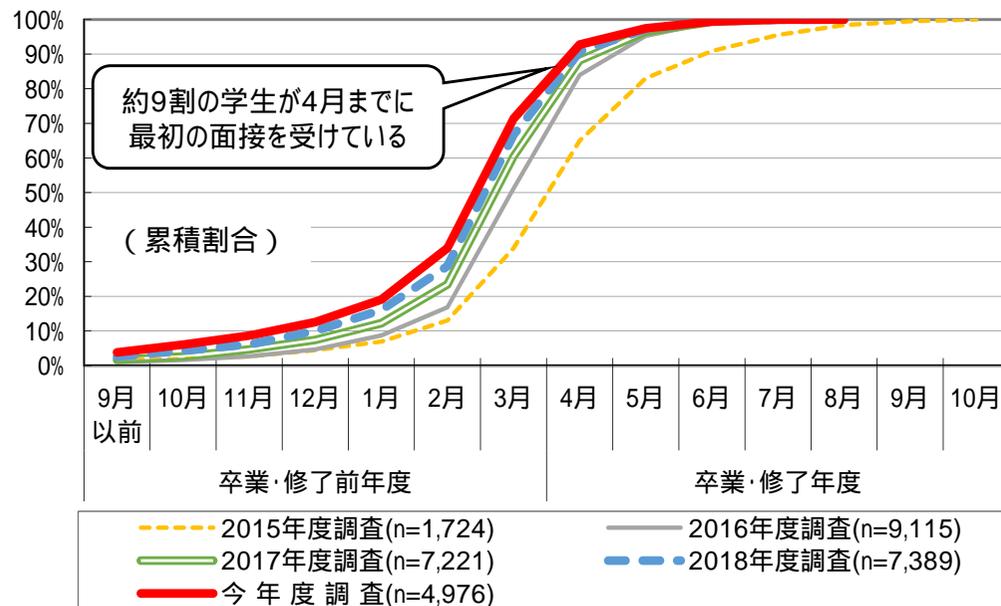
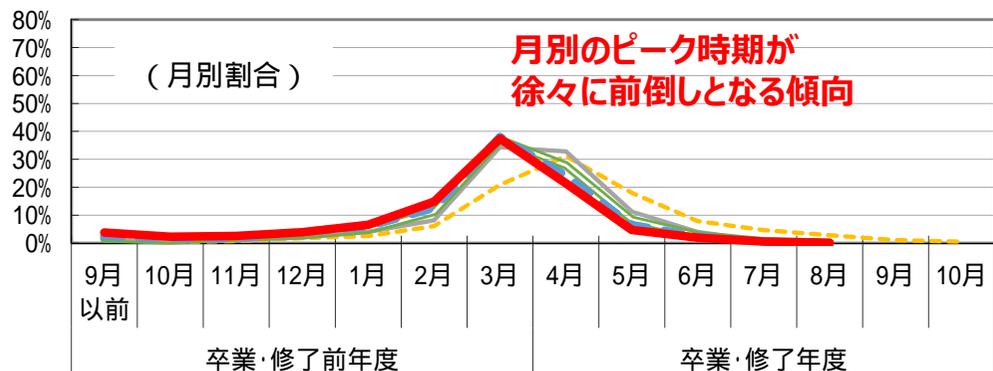
- - - 2015年度調査(n=2,025) — 2016年度調査(n=10,088)
 — 2017年度調査(n=7,907) - - - 2018年度調査(n=8,049)
 — 今年度調査(n=5,586)

- - - 2015年度調査・企業説明会等への参加のピーク(n=2,025)
 — 2016年度調査・企業説明会等への参加のピーク(n=10,207)
 — 2017年度調査・企業説明会等への参加のピーク(n=8,029)
 - - - 2018年度調査・企業説明会等への参加のピーク(n=8,155)
 — 今年度調査・企業説明会等への参加のピーク(n=5,598)

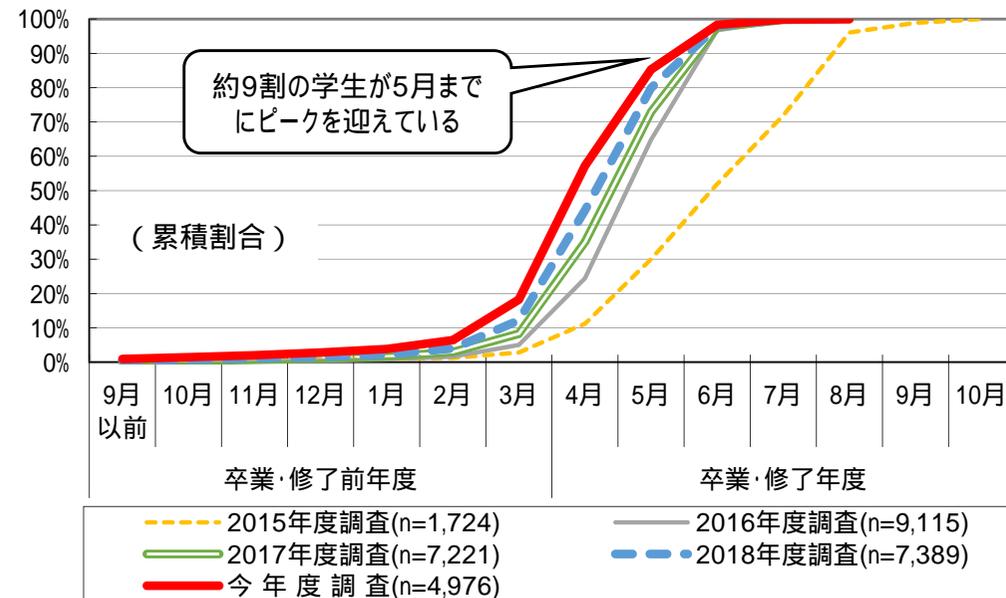
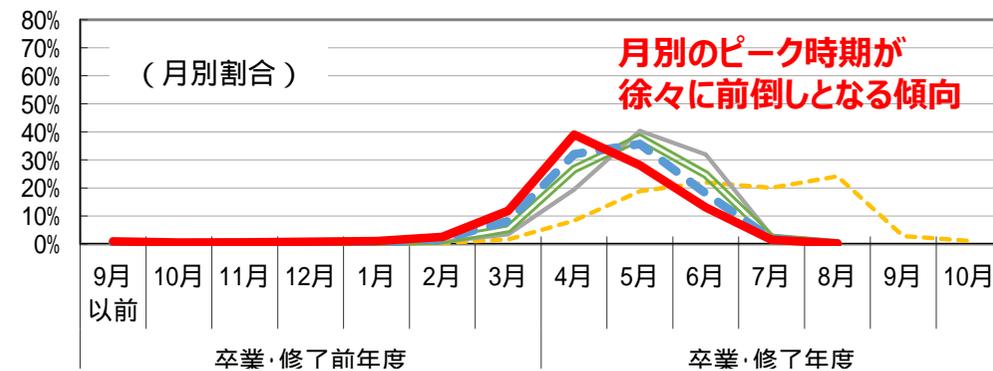
採用面接の実施時期

- **最初に面接を受けた時期**は、月別で見ると**2月が15%、3月が37%、4月が21%**、累計で見ると**4月までに約9割**となっており、採用選考活動開始の6月を待たずに面接が開始されている結果。
- **採用面接のピーク時期**は、月別で見ると**4月が39%、5月が28%、6月が13%**と、4～5月に集中する結果。2016年度以降を経年比較すると、**4月がピークとの回答割合が上昇しており、徐々に早期化している傾向**が見て取れる。

最初に面接を受けた時期



採用面接のピーク時期

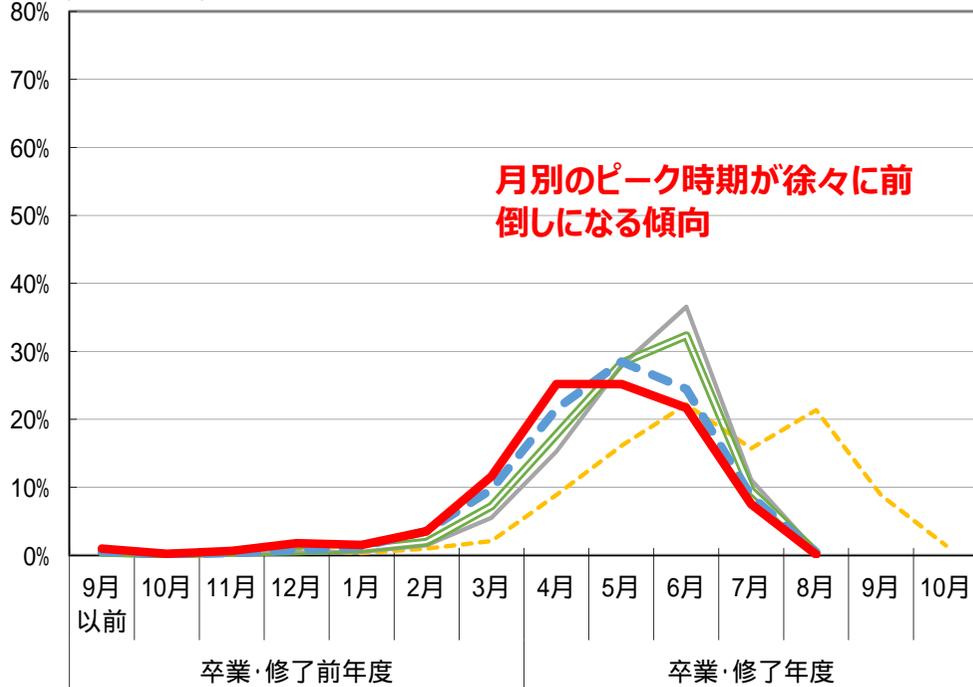


内々定を受けた時期

- 内々定を受けた時期は、月別にみると、**3月が12%、4・5月が25%、6月が22%**となっており、面接時期と同様に、採用選考活動開始である**6月1日を待たずして内々定が出されている結果**。
- 2016年度以降を経年比較すると、**2016・2017年度はピークが6月、2018年度は5月**であったのに対し、**2019年度は4月・5月**となっており、緩やかな景気回復の下で売り手市場となる中で、企業が**内々定を出すタイミングが徐々に早期化する傾向**が見て取れる。
- 累計で見ると、**6月までに9割以上の学生が内々定を受けている**。

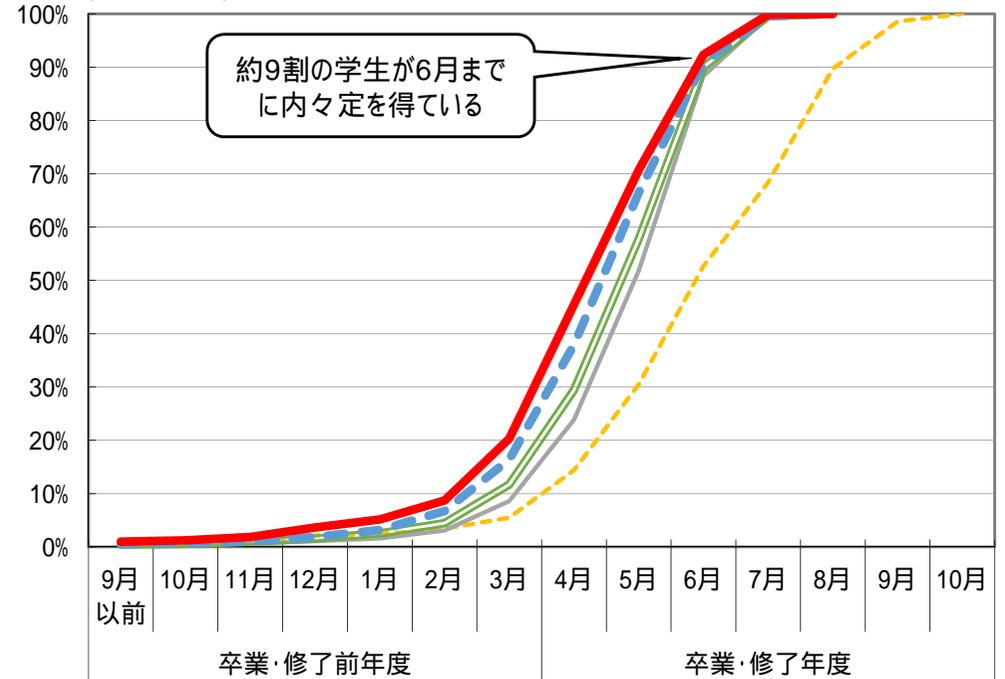
内々定を受けた時期

(月別割合)



月別のピーク時期が徐々に前倒しになる傾向

(累積割合)



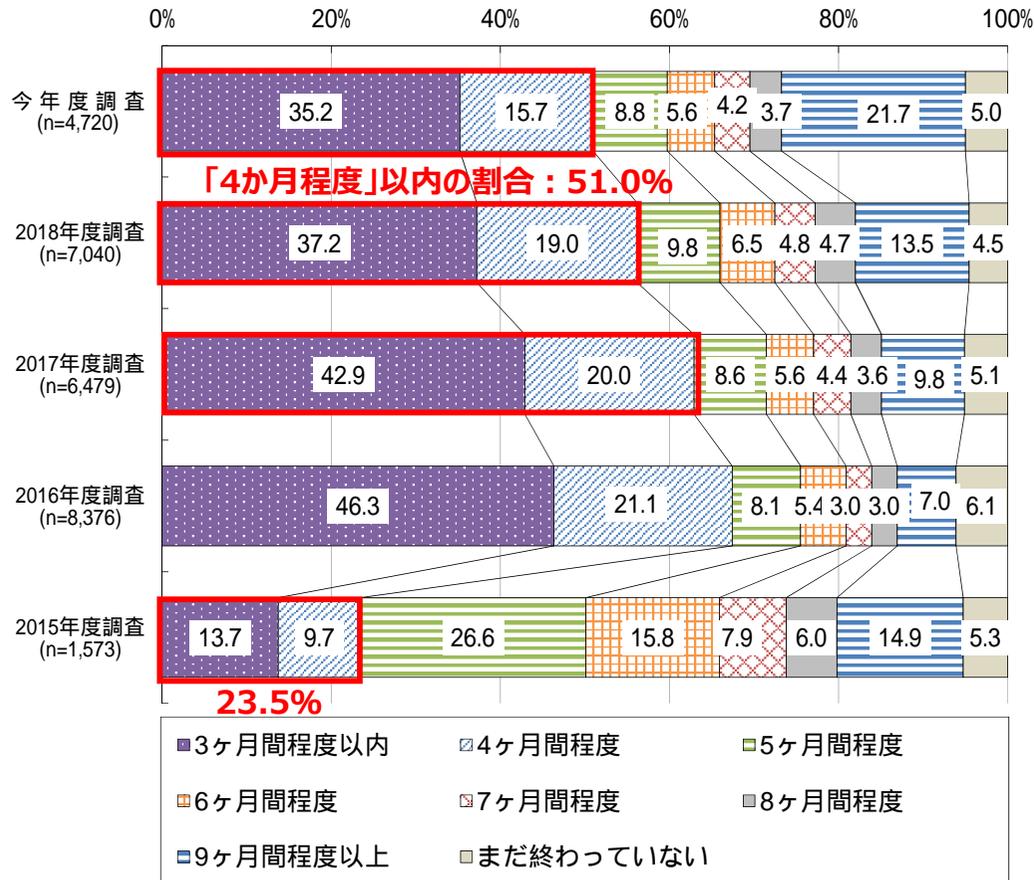
約9割の学生が6月までに内々定を得ている

内々定を受けた者がどの時期に内々定を得たかを示すものであり、内々定を受けていないと回答した者は集計対象外である点に留意。

就職活動に要する期間、学修時間の確保

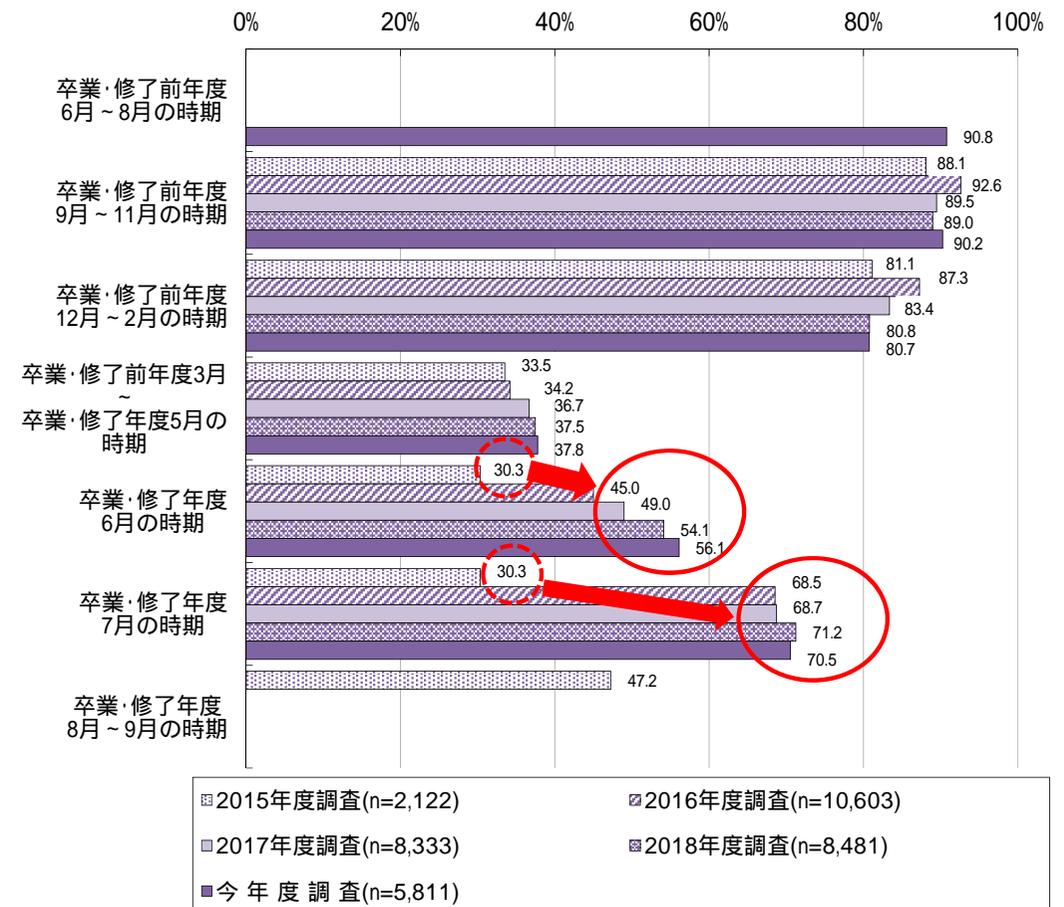
- 面接時期等の若干の早期化傾向がみられ、それに伴い2016年度以降は就職活動の期間も長期化傾向にあるが、採用選考活動開始が8月であった2015年度と比べると、
 - ・ 就職活動の始まりから終わりまでの期間が「4か月以内」との回答割合が約5割となるなど**短縮化**されている。
 - ・ **6・7月の時期に「学修時間を確保できた」との回答割合が大幅に上昇**している。
- **学業専念の時間確保という観点では、就職・採用活動時期の見直しの効果が現れている**と考えられる。

就職活動の始まりから終わりまでの期間



就職活動と学修時間の確保

時期別の学修時間について、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した者の割合

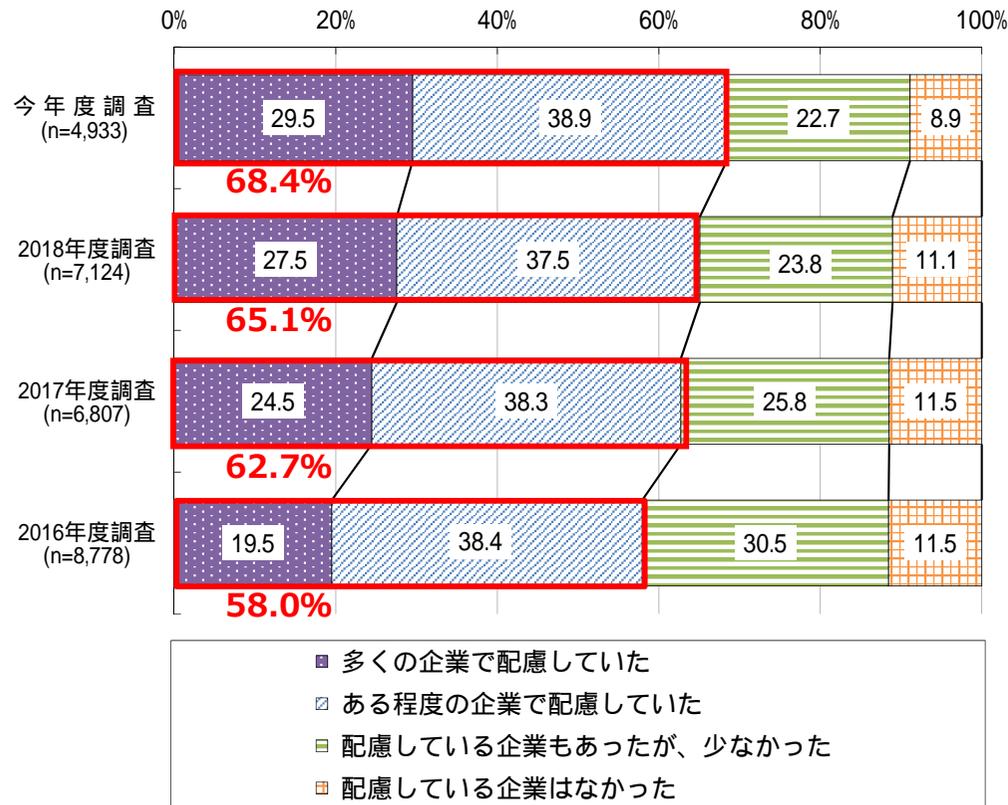


企業による学業等や留学経験者への配慮

- 多くの企業又はある程度の企業で、
 - ・ 説明会や面接等の日程に関して、**授業や試験等の妨げにならないよう配慮がなされていたと感じた学生の割合は約7割**、
 - ・ 留学経験者向けのスケジュールや情報を示すなど、**留学により不利にならないよう配慮がなされていたと感じた学生の割合は約4割**
- となっており、企業による学業や留学等への配慮が一定程度なされている。

企業による学生の学業等への配慮

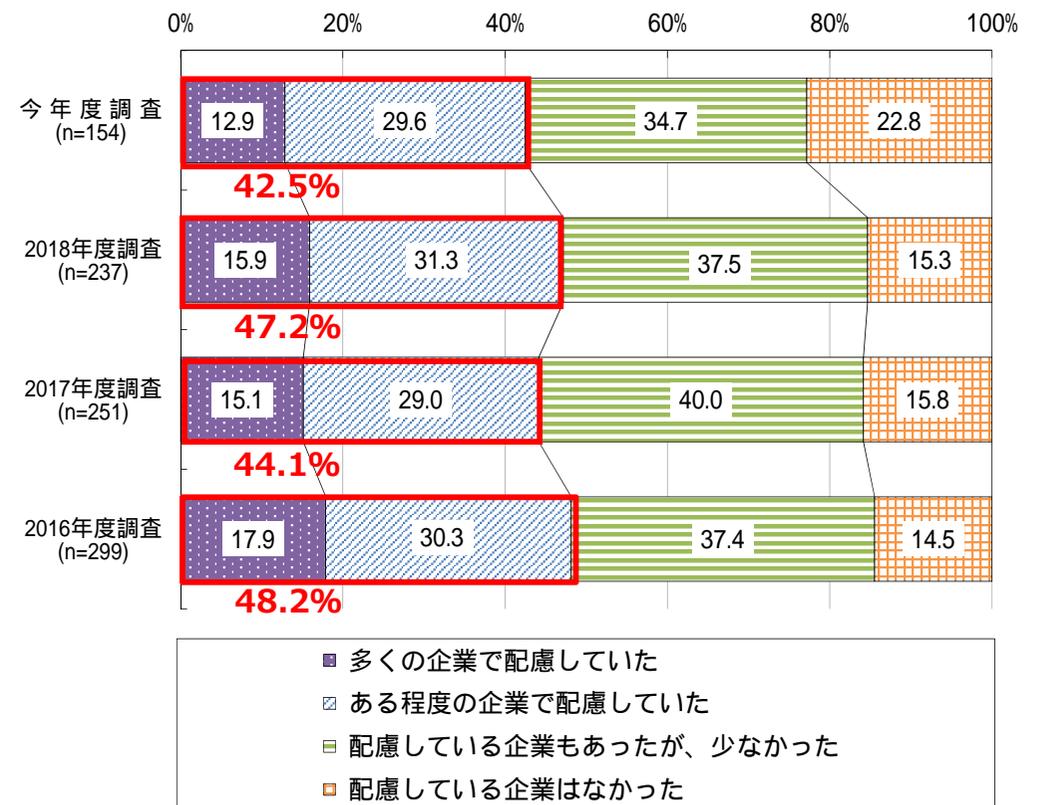
企業側が、説明会や面接等の日程・時間帯等について、授業・試験等の妨げにならないよう時間の設定など配慮していたか、という設問に対する回答



「就職活動最優先で活動していたため、よくわからない」と回答した者を除いた上で集計。

企業による留学経験者の配慮

企業側から留学経験者向けのスケジュール・情報を別途示すなど、留学により不利にならないよう配慮していたか、という設問に対する回答

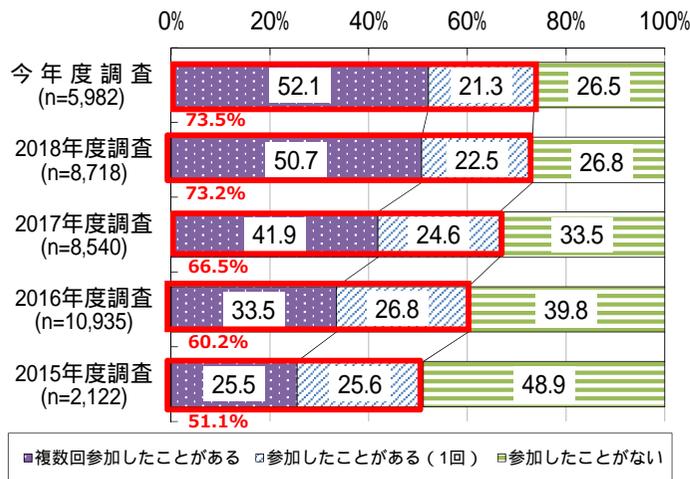


「留学経験者であることを特に意識せずに就職活動を行ったため、わからない」と回答した者を除いた上で集計。

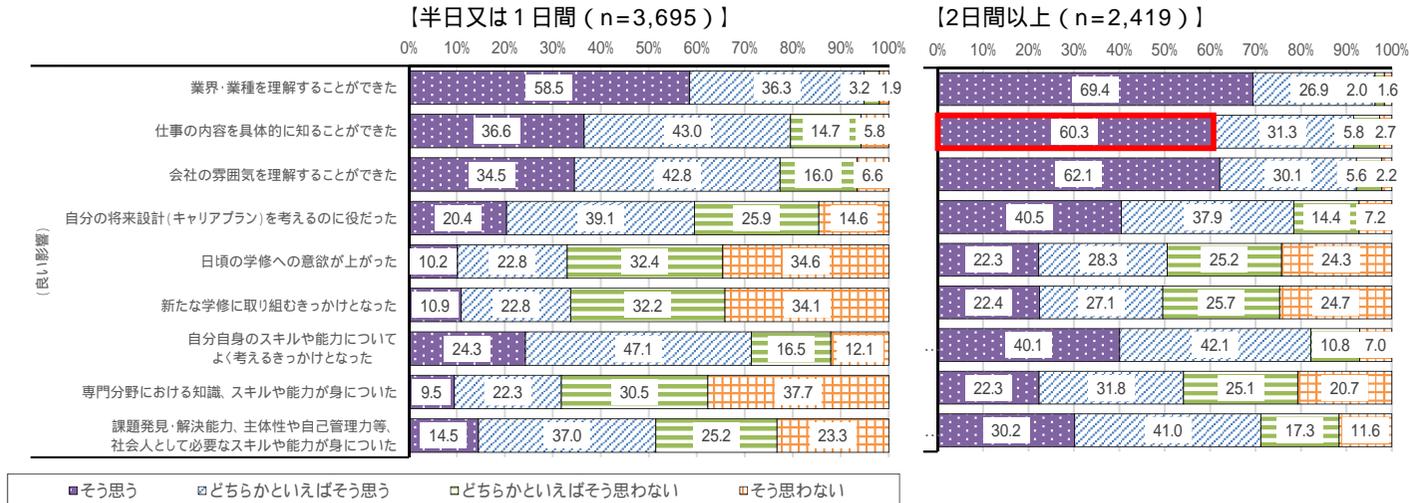
インターンシップへの参加状況等

- インターンシップに参加したことがあると回答した学生の割合は約7割となっており、2018年度と同程度の水準となっている。
- 「2日以上インターンシップに参加して感じた効果」について、「仕事の内容を具体的に知ることができた」と回答した割合は約6割となっている。
- 参加した「半日又は1日間」のインターンシップが「就業体験等を伴うものではなかった」と回答した割合は約6割となっている。
- また、参加したインターンシップが採用のための実質的な選考行為を含んでいた割合は約3割となっている。

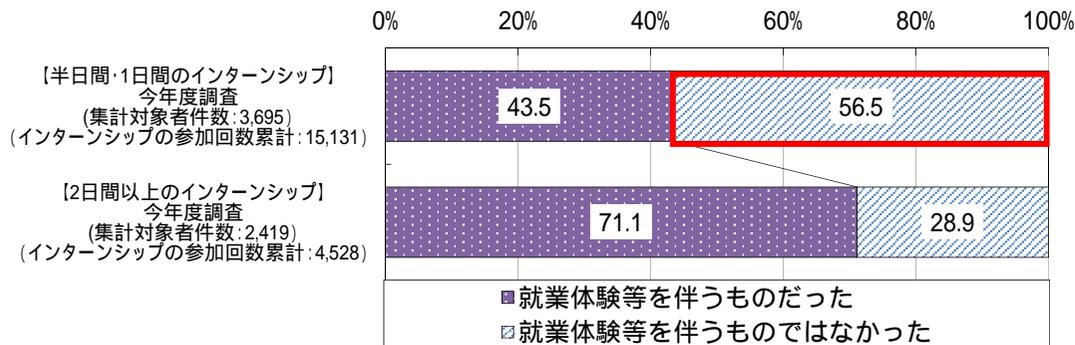
インターンシップ参加経験の有無



インターンシップ参加の効果



参加したインターンシップの就業体験等との関係性



インターンシップにおける実質的な選考実施の有無

